

令和3年度第1回瀬戸市図書館協議会
議事録

日時：令和3年10月8日（金）午前10時00分から正午まで

場所：瀬戸市立図書館 1階 集会室

出席者：13名

<委員> 中井 孝幸（会長）、加藤 和守（副会長）、秋山 理咲子、石川 良文、
加藤 絹子、新海 弘之、早川 寿、福田 直美、藤戸 環、馬宮 孝好

<事務局> 教育部長 松崎 太郎、図書館長 吉村 きみ、図書館主事 湯澤 綾子

傍聴者：3名

議事内容：

1 開会

事務局進行

- ・会議成立の報告
- ・傍聴者へ注意事項の説明
- ・委員へ議事内容記録のための録音の説明

2 あいさつ

○教育部長

第5波が収束にむかい一安心している。コロナは悪い事ばかり言われているが、外出しなくなった代わりに活字に親しむ時間ができるなどいいこともあった。

利活用計画について、令和5年度を目指して、今日から、瀬戸らしい、本に親しむ、活字に親しむ図書館にできたらいいと思う。お力添えいただきたい。

○事務局

- ・資料確認

3 委員紹介

- ・新委員の紹介

4 議事

○事務局

議事に移る。議事の進行は、会長にお願いする。

○会長

図書館の利活用計画について新しい話もあるので、みんなの意見を伺いたいと思う。

(1) コロナ過における図書館サービスについて

○事務局（図書館長）

- ・資料2-1、資料2-2に基づき説明。

○委員

電子書籍は子どもにとって色々な絵本や話が聞けたりしてよいと思うし、コロナで休館中にも本が読めて非常にありがたかった。しかし、実用書が多くじっくり読める本が少なく感じる。どのように選ばれているのか。

○事務局（図書館長）

電子図書館を始めた当初は、800冊からのスタートであった。電子図書館を入れた一番の目的が読書のバリアフリーであるため、リフロー型と呼ばれる音声読み上げ型や映像・朗読の資料を中心に入れている。

じっくり読めるものも入れていきたいと考えているので、前回の選書でそういったものも入れた。随時入れていく予定である。

意見を聞きながら選書していきたいと思っているが、今まで読書できなかった人たちへのサービスとして充実していくことが第一にあるということをご理解いただきたいと思います。

○委員

資料2-1について、電子図書館の利用年齢構成比が40代50代が多いということであるが、紙の資料は子どもや高齢者が多い。コロナで電子書籍を入れる前の利用者の年齢層の40代50代はどのような状況であったのか。

このデータを見る限りでは、40代50代がすごく利用しているように感じるが、この年代は子育てや仕事で図書館に来られない。アナログの本だとなかなか読めないのだが、こういう機会で層が拡大できたように見える。実際にはどうなのか。

○事務局（図書館長）

紙の本の年齢別の状況は昨年度も同じような利用状況である。電子書籍になると40代50代の利用が多いと今回わかった。

○会長

電子書籍が始まると今までの紙の本が読まれなくなるのではという意見もあるが、今まで使い続けていた人は使い続けて、さらにそういった人たちがプラスアルファで利用し始めたのかもしれない。新しいサービスとしてよい傾向が出ているのではないかと思う。

現在は圧倒的に紙の本の利用者が多いが、3,000冊を超えると利用人数が増えるという話であるが、今後増えていくのか。

○館長

他館の状況をみると3,000冊以上の館は利用度が高いことが、3月の調査でわかった。

それくらい蔵書があると見応えがあり、選ぶ本が増えると予想する。

新しい利用者が獲得できたという話については、電子図書館を利用するには図書館の利用カードを持っていないと利用できない。利用登録の有効期限は5年である。休館中にカード作成ができないので、メール申請でIDを発行するようにしたところ、問合せが多くあった。20名の申し込みに対し、実際にIDを発行したのはカードを持っていない10名であった。残りの10名は、しばらく図書館を利用していなかったが、電子図書館ということで利用し始めたと思われる。

○会長

利用を再開した人が10名いたということか。

○事務局（図書館長）

電子書籍があるということで再開した人が10名。新規に作成した人が10名である。

○委員

ギガスクール構想によって児童・生徒にタブレット端末が一人一台使用できる状態になった。タブレットで電子資料の使用が十分考えられるが、児童向けの蔵書の現状と展望などがあれば教えていただきたい。

○事務局(図書館長)

児童書の蔵書はある。詳細は資料をまとめて後日提出したい。蔵書数については利用状況に応じて対応していきたいと思う。

今の状況としては、児童書の貸出は伸びていないため、小学生、中学生にもぜひ使ってほしい。

○会長

児童書は順次購入していくということによいか。

○事務局（図書館長）

利用状況に応じて順次入れていく予定である。

○委員

4月に昨年度の利用状況を見たが、コロナの影響か入館者数も貸出冊数も減少している中で新規登録者数だけが120%と増加していた。このあたりの要因は電子書籍の導入が大きかったのか。

前回、年齢構成・年代構成・男女比・ベストリーダーを提示してもらったが、データをクロスさせて、きめ細かく調べることができるのか。

ベンダーサイドもコロナの追い風で電子書籍の導入が進んだこともあってそういう傾向をつかまえたいと思っている。ベンダーサイドに図書館側の要望が伝わっていくと、ベンダーサイドも出版社に働きかけるようになると思うので、そこを意識してベンダーと話していくのもいいのではないか。

○事務局（図書館長）

図書館の昨年度の利用統計において、新規登録者が120%増加しているが、貸出冊数の減少については休館が影響していると言える。新規登録者の増加については、電子図書館が開始されたのが2月25日ということもあり、その時点での貸出がまだまだであったことを考えると影響はなかったと考える。

貸出冊数自体は月割にすると順調に伸びており、純粋に全体の利用が増えていると分析している。

今回出した電子書籍の利用状況については、システム上単純なデータしか抽出できず、クロスさせていくなれば手作業となる。システムに問い合わせてもその返答であった。

ベンダーサイドへの要望については、私どもも声をあげていきたいと考えている。

○委員

電子書籍とは違う観点で聞きたいと思う。高校生がこの部屋を利用して勉強していたと思うが、コロナ禍で利用できない。図書館というところは本を貸し出して本を読むということが直接的に大事だと思うが、サードプレイスの場所としても大事だと考える。本が身近にある場所で勉強し、本を読むことも大事なため、その機会が奪われてしまっているように思う。

大学の図書館も学習の機会を閉ざしてはいけないということで開放している。図書館で会話する人はいないため問題は起こっていない。

公共施設なのでリスクを考えて安全にということは理解できるが、サードプレイスの場所として、そういう観点も大事である。図書館はどういう状況だったのか。

○事務局（図書館長）

今年度4月当初は、閲覧席を半分にしての開館であり、PCルーム等も閉鎖し、集会室と会議室は、前年度の休館中に返却された本の置き場所として利用したため開放できない状況であった。瀬戸市においては感染者が増えてきた時期であったので1時間以内の滞在での開館だったので4月から今まで開館しているときに集会室、会議室を勉強のために使っていただくという開放は行っていなかった。

今後については、会議室にはまだ多くの本があり、現在も1時間以内の滞在をお願いしているため、開放に至っていない。コロナがだいぶ落ち着いてきているので順次コロナ感染予防を万全にとりながら開放していくつもりである。図書館としても利用者に戻ってきてほしいと考えており、若い人にもサードプレイスとしての場所、学習の場としても利用してもらうよう教育委員会の中で図りながら進めていきたいと考えている。

○会長

行政が決めることなので一律であるが、図書館は比較的会話の少なく飛沫の飛ばない施設であるのでぜひ開け続けていってほしい。

（2）図書館利活用計画の進捗状況について

○事務局（図書館長）

・資料3、資料4、資料5に基づき事務局（図書館長）より説明。

○委員

利用者の立場から考えると、5ヶ年計画というのが市民に周知されていないため、このまま行くと市民が図書館から離れていくのではないかと思う。市民に対して説明会を開くなどPRする方法を考えてほしい。

本館で読み聞かせ等をしている者の意見では本館のリニューアルには賛成ではあるが、児童コーナーにパオはいらない。せまい中になぜそのようなものを置くのかという声がある。

本館の本の並べ方を十進分類法にはしないと前回説明があったが、これは市立図書館だけの問題ではないと思う。各小学校、中学校は市立図書館に倣った配架のため、周知が必要ではないか。図書主任者会や校長会等でPRすることが必要ではないか。

一番心配しているのは情報ライブラリーである。子どもを連れた女性や高齢者が多く利用しているが、若者はフリースペースで飲食をしながら宿題をやっているのをよく見る。情報ライブラリーを若者たちが利用できるようにするのであれば、PRや楽しみになるものがないといけない。

地域図書館は、親子と高齢者を対象にしているが、図書館ごとに事情が異なっていると思う。例えば、光陵中学校は3階に地域図書館があるが、小さい子をもつ親子や高齢者は行けない。そこに他の地域図書館と同じような本を置く必要はないと思う。各学校、地域住民の意見を聞いて、どういった本が必要かは、全ての地域図書館ごとに考える必要がある。

次に、以前の資料に瀬戸の図書館を貸本屋にしないとあった。本の貸出だけではなくて、サードプレイス等のこともあるが、滋賀県の元図書館長の前川恒雄氏の発言で「貸出が全ての図書館の仕事の基礎だ」とあった。貸出を重点的にやる、子どもに重点をかけてサービスをするということで利用者と図書館の間がすごく近い。これから利活用計画で図書館を変えていくのにも瀬戸の市民のために図書館を運営してほしい。今は、両者に距離があるように感じる。

○事務局(図書館長)

様々な意見があると思う。図書館で一方向的に進めていくものではなく、市民の意見を聞きながら図書館としての方向性を示し進めていきたい。

○会長

主題別配架やテーマ展示をNDCによらないというのではなくて、NDCをベースに作っていくことは可能だと思う。情報ライブラリーと地域図書館のこれからを、本館だけではなく瀬戸市全体の中での図書館サービスを、どう考えるかということが非常に大切であると思う。

今、ご指摘いただいたように情報ライブラリーは立地等もよいのでそれをもう少し活用

できるとよいと考える。

地域図書館は、中学校区に1館と考えられていてそういった形で少しずつ整備されている。地域図書館は土日に開館するので、学校が閉まっても図書館にダイレクトに利用できる必要がある。そういった建物の構造もあって、3階のためアクセスは悪いが光陵中学校になったと聞いている。各図書館で少し特色を持たせてもいいのではないかという意見であったが、それもよいと思う。

以前調査したところ、本館に近い地域は本館も利用していた。本館から少し遠い地域は、両立が難しくなるのでもう少し内容を充実させるのもよいと思う。学校図書館、その地域館の本を充実させるというのはエリアのサービスにとってもよいかなと思う。

○委員

6月に渡された改修計画の図面を見ると、今と同じ面積の中にラウンジが3つあって書棚は減っている。これでよいのかと考える。

このままの面積で改修するには狭すぎるので、一部屋くらい増築したほうがよいのではないかなと思うがどうか。2階にある参考室には瀬戸の古い歴史の資料等が置いてあるが、その本がどこに行くのかよくわからない。

この先の利活用計画で電算システムの変更があるようだが、現在、セルフ貸出のレシートが当日の分しか印字されていない。窓口だと借りているものが全て印字されている。以前に今のシステムではできないと聞いている。電算システムの変更のときにレシートについては過去の分も印字されるようにしてもらえるようにお願いしたい。

○事務局（図書館長）

6月に渡した図面はひとつの案であり決定ではない。今後どうしていくかということを協議していきたいと思っている。

参考室の資料については、郷土の本や焼き物の本は図書館で一番大切な資料であるため、もっと手に取りやすい所へ配架したいと考えている。利用の少ない参考書類に関しては整備していかなければならないと考える。利用者が使いやすい配置の計画をしていく予定である。

電算システムは、来年度10月の更新を目指しているが、セルフ貸出機に関しては別付けのためサーバーとの通信の関係で、今のシステムとの連携が難しいと聞いている。いろいろな意見を聞きながら、今後レシート自体をどうしていくかを考えたい。利用者の貸出状況については、館内に設置しているパソコンのマイページでも確認できる時代になってきたので理解いただきながら今後の運用について考えているところである。

○会長

レシートが2種類出てくるのか

○事務局（図書館長）

対人カウンターとセルフ貸出機のレシートが別である。

○会長

ICタグでないと利用できないが読書通帳という借りた本が印字されるものを導入してい

るところもある。おくすり手帳のようにシールを貼るタイプのものもある。子どもはシールを貼るのが好きだし、高齢者も何を借りたかわかる。そういったアイデアを出して行くのもいいかと思う。

○委員

作業の計画というのは確定的ではないということだが、一部屋くらいは増築する必要があるのではないかと思う。このまま20～30年やっていくのであればコンクリートの耐用年数も20～30年以内である。ラウンジをたくさん作れば非常に手狭になるし、増築することをこの際考えていかないと将来的には狭いと思う。そういう計画は今からでも入るのか。

○事務局（図書館長）

増築がまったくなしということではないと思う。今後計画していく中で必要であれば当局に要求していく必要はあると考える。

ラウンジが多い図面になっている件について、本館の役割として無料貸本屋からの脱却という話を以前したかと思うが、図書館の歴史を見ていくと一時期貸出至上主義で貸出冊数を競い合うという時代もあったが、図書館はそういう役目が終わったと考える。図書館に来てゆったりと本に親しむというコンセプトがあった。そのイメージを載せたため前回の資料となっている。決定ではないので今後どのようにしていくかというのは意見を聞きながらやっていきたいと思っている。

○委員

利活用計画を、体制等どのように進めていくのか。資料を見て興味をそそられるため、実際利用される市民の方も関心があると思う。

瀬戸市は以前、図書館移転の話があったが、突然消えてしまった経緯がある。いろんな意見が出てどうにもならなくなったのではないかと考える。老朽化した図書館を費用もかけずに市民が快適に利用できるようにと改修計画が出てきたかと思う。また立ち消えにならないよう進める必要がある。そのためには、どうやって市民の意見を聞き進めていくかということになるわけだが、どうやって進めていくのかが気になっている。

○委員

平成28年1月に642万円の委託費をかけて図書館構想が出され、パブリックコメント等実施した。結局、適地を検討したがいい土台の場所がないということであったが、その結果も館長から聞いた。市は少子化になってくるので新しい建物を作らないということだが、市からの説明はなかった。

○委員

市として説明がないと、館長ばかりが責められて困ることになる。館長も答えられない立場だと思うので、もう少し市としての考えとしてお話いただいたほうが納得できる。

○事務局（図書館長）

図書館構想の結果、新しい建物を建てないとなった。市の決定事項を施設の代表である館

長から説明した。

委員が言う今後の体制についてはまだ詳細は決まっていない。市民を代表する市民公募委員もいらっしゃる図書館協議会を中心に協議を進めていくことになると思う。委員や市民の意見を聞きながら、取り入れていきたいと考えている。

○教育部長

今までは教育委員会や図書館だけで計画を進めていたところがあったが、1年延びた経緯の中には、財政当局との中で図書館は瀬戸市のひとつの財産となり得るのでオール瀬戸で考えていこうという話が出た。北川民次の壁画を見るツアーがあるとも聞いている。建物全体が瀬戸市の財産となっているのでそれを含めて取り組んでいきたいと考えている。

○委員

スケジュール案を見てこれだけ大きな改装になると一定期間本館を閉めることになるのではないと思う。その間、例えば情報ライブラリーで何ができるか。本館を閉めて配架等を行うのであれば、令和4年度に本館書架の再編という時点を、うまく使って具体的に市民に見てもらい意見をもらうなど、最終的な開館にむけて、一番望まれる中庸をとった並べ方を作っていくと具体的な計画を立てられると思う。そのあたりも考慮しながら、具体的に提示しながら市民の声を取り込んでいくようなしかけも必要ではないか。

ロールの中で、委託業者のスキルアップ研修、サポーターの組織づくり・公募も書かれている。教育部長も言ったようにオール瀬戸でという考えであるならば、市民の声を聴くことも一番大切だと考えるが、市役所の組織の中で図書館は今後こういうことを目指してやっていくということを伝えていくことが大事だと考える。

図書館を貸出専用じゃなくいろいろな情報を発信できる場所にしていくのであれば、発信元になっている一次製作者、町の当局もそうであるが、市民の声を聞きながらそういう体制を作っていく必要があると思う。特に管理部門の強化が必要じゃないかと考える。

○委員

今はブックスタートが全然できない状況であり、子育て世代の方々は情報の入手がネットしかない。ストレスもたまり、せまい部屋で子どもと二人きりの状況がつらいと聞いている。せめて情報交換できるような場所をと思っているが、今年はコロナの関係でブックスタートも本を渡すだけで終わっている。ブックスタートをきっかけに親子がまた図書館に来るのはすごく大きいと思うため、計画には書かれていないが、継続内容として盛り込んでいただければと考える。

○事務局（図書館長）

ブックスタートに関しては、現在絵本を渡すだけという状態で、図書館としては6カ月健康相談を行っている健康課に、図書館のスタッフから手渡すことや、読み聞かせの大切さについて伝えたいと思っていることを伝えてはいるが、やはり今の状況ではそこまでは至れないとのことである。

ブックスタートは今後もずっと続けていく。ブックスタートで行っていた読み聞かせ体

験を予約制でできないか進めているところである。

小さい子どもを抱えた方々が行くところがなくストレスをためたまま家で過ごしているということは感じている。できるだけ早くこの計画を進めていきたい。

○委員

今、小学生が読書する習慣というものを身に付けていなくて、活字が読めない。算数の問題を解かせてみるとよくわかるのだが、計算などの機械的な作業はできても、文章題となると意図するところがわからないという子どもが増えてきて将来を不安に思っている。

子どもたちが育っている環境の中で、いかに活字にふれて文章を読むという習慣を身に付けてきているかというのが大きな差になっていると思う。小さい頃の読み聞かせからスタートしているかと思うが、本に慣れ親しむ、読んでもらって頭で考える、自分でも読んでみたい、といった経験を積み重ねることがすごく大切だと思う。

図書館は、本と子どもたちとの出会いからそういったものを大切にしていっていただきたいと願う。これからも瀬戸市のこの図書館のあり方については大きな意味があると思う。

○委員

保育園で働いていると、ブックスタートで渡された本を家でも読み聞かせしてもらっているということで、園で読むと子どもたちがとても喜ぶ。そういった子どもたちの姿もあるので、これからもどんな形でも続けていってくれたらありがたいと思う。

電子書籍についてもとても興味深く、家事で子どもたちを見ていられない間に、楽しい読み聞かせができる本があった。保護者も子育てで利用できるのではないかと楽しみに思う。

○委員

これからの時代を背負っていくために図書館は必要である。立地は悪いかもしれないが、その分中身を充実させれば一番良いかと思う。

公民館でも貸出を行っているため、地域の子どもたちが学校で読めない本を読みにくる。親と来る子どもが多いが、子ども同士で宿題をしに来る場合もある。今、図書館から配達されている本は物語が多く、参考資料になるようなものがない。

子どもたちは学校でパソコンが使えないので、公民館に利用しに来ることも多い。パソコンの扱い方等の本があるとよいと思う。質問されても資料がないという話をいろんな公民館で聞く。もう少し子ども向けの本を時代に合わせて充実させそろえていただければよい。

○委員

新築計画があった際にパブリックコメントを出したが、それもいつの間にか立ち消えになったと聞いた。全国で新しい図書館を作っているが、それは周囲の力だと思う。

瀬戸市は新しい図書館を作るのではなく改築して充実させると方針が変わったと思うが、建物よりも中身を充実させてほしい。瀬戸の図書は充実しているため、近隣の図書館と比べてもよい本がある。ただ中を充実するのであればいい図書館にせねばいけないとも思う。外壁の落下防止工事は来年に予定しているが、地震が起こった場合耐用年数に不安があるのでしっかりと補強してほしい。

○事務局（図書館長）

耐震工事については平成１９年度に一度やっているが、何年も経過しているので今回の改修工事で補強できるところは補強していく。市役所にいる技師と相談しながらどういった調査が必要なのかなど進めていく。

今回の改修は、長寿命化工事でもあり８０年は使えるように、あと３０年使えるようにしていくということを技師と確認している。その方向で進んでいくと思っている。

○会長

建物を使い続けていくというのを市が決断したので、それを受けてどうしていくかということを考えていかねばならない。市民の要請やいろんな部署を巻き込んで進めていくという話なので、令和３年度後半をどう取り組むかを協議していただいて、１年かけて基本計画・基本設計を図書館なり教育委員会なり瀬戸市の中で検討するといったチームが必要になると考える。

その体制作りを令和３年度の後期に検討して、来年１年間で財政をどうするのかということと、アイデアを出し合って市民と考えていくという取り組みの方針を協議していけばよいと考える。

増築の話も出てきたが、増築できれば非常に良いが、改修工事で成功している図書館の事例を探して勉強することが必要ではないかと思う。愛知県内にはその事例がないが、県外であれば大阪の箕面市がある。できることで考えていけばよい。公共図書館で一番がんばっているのは、浦安市の図書館である。今まで増築を繰り返して来たが、一年間閉館して改修工事をした。本棚を減らしてロビーを置き閲覧スペースを作った。今のニーズに合うように、以前は貸出型であったが滞在型にプラスアルファした。瀬戸で私たちに何ができるかということをも市民の方々を巻き込んで、協議していくのもいいと思う。皆にご協力いただきながら、そういった体制を整えていきたい。

まずは、令和３年度にどうしていくか、スキームを作っていくのが先決である。もう少し具体的なものを決めて反映していく。細かいところであればブックスタートが入っていないなどの意見があったがそういったことを盛り込んで足し算していけばよいかと思う。

ようやく一歩進んだため、皆でサポートしてもらいたい。

<発言等なし>

（３）その他

○事務局（図書館長）

図書館に新しく設置した図書の除菌機「和みの館」を紹介。

５年前から図書除菌機はあったが、１回の除菌が３０秒で４冊しかできず、コロナ対策であるのに密になるという状態であった。

今回導入した３台は、時間は１分かかるが１０冊同時に除菌でき、スムーズに利用でき

るようになった。9月の休館中に導入し、10月から利用を開始した。

○会長

10月17日に大学の研究室の学生と子どもたちで本棚を作るワークショップをする。5ヶ年計画の市民への説明が足りていないのではという意見もあったが、講座には親子で参加してもらうのでそういう機会を使って利活用計画があることを宣伝していきたい。

○委員

今は休館が明けて人が大変多いので、新刊本の棚に本が残っていない。新刊一覧は検索機で見ることできるが、高齢だと難しい。瀬戸は選書もよく新聞の書評に掲載された本もそろっているため、一覧を掲示かファイルしてもらえるとありがたい。

○事務局（図書館長）

新着の一覧表については、一か月ごとにまとめて蔵書検索機の横に設置している。案内するのでご利用いただきたい。

・議長から引き継ぎ、事務局が進行

5. その他

○事務局

次回の協議会は2月を予定している。日程については調整させていただく。

6. 閉会

令和3年度第1回瀬戸市図書館協議会
次 第

日時：令和3年10月8日
午前10時～正午
会場：瀬戸市立図書館集会室

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

資料1

4 議 事

- (1) コロナ禍における図書館サービスについて
・電子書籍貸出サービス

資料2-1、2

- (2) 図書館利活用計画の進捗状況について

資料3

資料4

資料5

- (3) その他

5 その他

6 閉 会

瀬戸市図書館協議会委員名簿

任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日

(敬称略)

区分（条例第5条該当号）	所属・団体	役職	氏名
学校教育関係者（1号）	瀬戸市立にじの丘中学校	校長	早川 寿
学校教育関係者（1号）	瀬戸市立幡山西小学校	校長	藤戸 環
社会教育関係者（1号）	瀬戸市公民館協議会	会長	加藤 和守
社会教育関係者（1号）	愛知芸術文化センター 愛知県図書館	資料支援課長	新海 弘之
図書館利用者（2号）	瀬戸図書館友の会	会長	加藤 絹子
図書館利用者（2号）	瀬戸市立水南保育園	園長	秋山 理咲子
学識経験者（3号）	南山大学総合政策学部	教授	石川 良文
学識経験者（3号）	愛知工業大学工学部	教授	中井 孝幸
市民公募（4号）	市民公募		福田 直美
市民公募（4号）	市民公募		馬宮 孝好

10名

電子図書館 利用統計
集計期間 R3/2/25～R3/9/27

男女比	男性	女性
	746 人 30.3%	1,718 人 69.7%
※参考 紙の本 (R2/4/1～9/28)	42.3%	57.7%

年代構成比	～5歳	6～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳
	20人 0.8%	264人 10.7%	47人 1.9%	25人 1.0%	20人 0.8%	130人 5.3%
	30代	40代	50代	60代	70代～	
	361人 14.6%	611人 24.8%	499人 20.2%	300人 12.2%	188人 7.6%	

※参考 紙の本 集計期間 R3/4/1～R3/9/27

年齢構成比	4歳以下	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳
	1,262 2.1%	20,982 34.4%	7,769 12.7%	688 1.1%	749 1.2%	558 0.9%
	30代	40代	50代	60代	70代～	
	4,042 6.6%	6,539 10.7%	4,436 7.3%	5,451 8.9%	8,529 14.0%	

電子図書館 利用状況

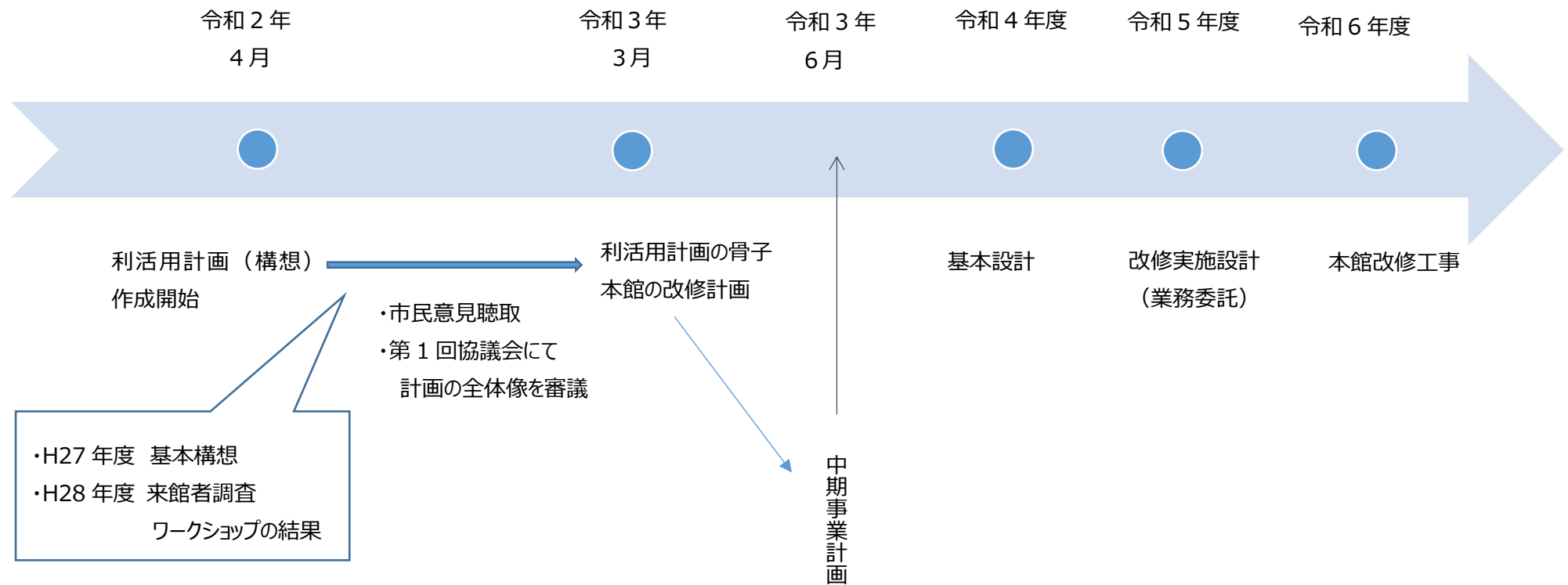
	ログイン 利用者(人)	実利用者(人)	貸出(冊)	閲覧(冊)	蔵書(冊)
2/25～2/28	67	23	49	78	800
3月	194	47	49	213	800
4月	116	31	70	120	800
5月	406	97	269	536	800
6月	617	81	281	757	800
7月	1,507	205	714	1,718	846
8月	981	135	463	1,055	886
9月	1,201	133	572	1,519	1,197
10月					1,476

図書館(紙の資料) 利用状況

	来館者(人)	実利用者(人)	貸出(冊)	閲覧(冊)	蔵書数(冊)
3月	20,392	5,882	50,334		R3.4.1現在 338,261
4月(4/26～30休館)	17,626	5,350	44,071		
5月(5/1～31休館)	—	—	—		
6月(6/1～20休館)	7,071	4,935	30,241		
7月	19,299	7,661	54,447		
8月(8/30～31休館)	22,971	5,570	51,533		
9月(9/1～30休館)	—	—	—		

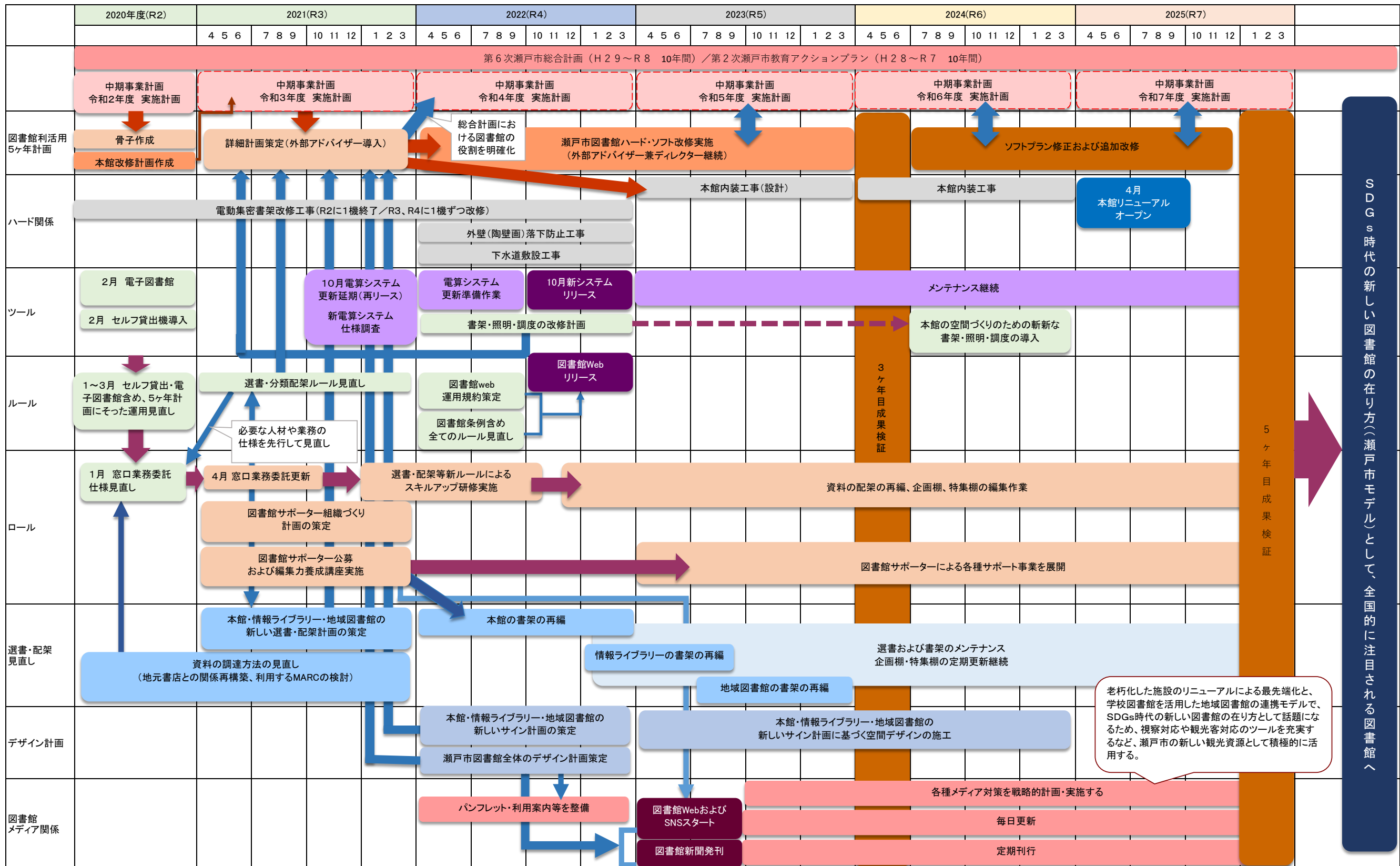
タイトル	出版社	貸出回数
ぴっけやまのおならくらべ (うごくえほんチルビー)	モーニング	21
もったいないばあさんと考えよう世界のこと	モーニング	16
大人の算数パズル計算ストレッチ (新感覚!脳トレBOOK)	すばる舎	14
カタイ頭をときほぐすパズル200	誠文堂新光社	14
イヤな気分をパッと手放す「自分思考」のすすめ 電子書籍版	誠文堂新光社	13
男の昼ごはん読本	ベターホーム協会	12
すみっコぐらし	主婦と生活社	12
超まるわかり理科のきほん 上 (子供の科学★放課後探偵シリーズ)	誠文堂新光社	12
ちょっとしたことでいいいに暮らせる45のコツ	すばる舎	12
4コマカピバラさん 1	主婦と生活社	11
いなばの白うさぎ (にほんむかしばなし)	Pan Rolling	10
すっぽんぽんのすけ (うごくえほんチルビー)	モーニング	10
だまされる目錯視のマジック (子供の科学★サイエンスブックス)	誠文堂新光社	10
中学英語でパッと話せる1秒英会話 デジタル版 (中経の文庫)	KADOKAWA	10
なにしてあそぶ?	イマジネーション・プラス	10
ビブリア古書堂の事件手帖 1 葉子さんと奇妙な客人たち (メディアワークス文庫)	KADOKAWA	10
読みたい絵本 (momo book)	マイルスタッフ	10
小説劇場版はいからさんが通る 前編 紅緒、花の17歳	講談社	9
だいすきすき	イマジネーション・プラス	9
超まるわかり理科のきほん 下 (子供の科学★放課後探偵シリーズ)	誠文堂新光社	9
ビブリア古書堂の事件手帖 2 葉子さんと謎めく日常 (メディアワークス文庫)	KADOKAWA	9
ペネロペかずをかぞえる (ペネロペおはなしえほん)	岩崎書店	9
マンガでわかる宇宙のふしぎ 電子書籍版 (子供の科学★放課後探偵シリーズ)	誠文堂新光社	9
民話と伝承の絶景36	山と溪谷社	9
落語文庫 1 松の巻 (講談社電子文庫)	講談社	9
生きづらいと思ったら親子で発達障害でした 入学準備編 (メディアファクトリー)	KADOKAWA	8
宇宙への秘密の鍵 (ホーキング博士のスペース・アドベンチャー)	岩崎書店	8
NHKガッテン!「家事」「暮らし」がラクで楽しくなる科学の黄金ワザ100 永久保存版	主婦と生活社	8
えんまとおっかさん (カラフルえほん)	岩崎書店	8
おいしいおしゃべり	東京書籍	8
体が硬い人ほどやせるストレッチ	マイナビ	8
きみと100年分の恋をしよう 1 はじめて恋が生まれた日 (講談社青い鳥文庫)	講談社	8
声に出して読みたい古事記 電子版	草思社	8
子どもの「生まれつき性格」を大切に育てる子育て	すばる舎	8
さんまいのおふだ (おとえほん日本昔話)	デシベル	8
ショートカットキー全事典 改訂版 (できるポケット)	インプレス	8
スティーブ・ジョブズが自分の子どもにiPhoneを持たせなかった理由	ゴマブックス	8
「手帳・メモ」の基本&超活用がイチから身につく本	すばる舎	8
丼&麺	ベターホーム出版局	8
なぞなぞえほん	アイフリークモバイル	8
「ハリー・ポッター」Vol.1が英語で楽しく読める本 電子書籍版	コスモピア	8
「引き出し1つ」から始まる!人生を救う片づけ	主婦と生活社	8
まんがでわかる地頭力を鍛える	東洋経済新報社	8
ももたろう (おとえほん日本昔話)	デシベル	8
腰痛治療「0分」革命!	主婦と生活社	8
冷凍しておく、便利なおかず (忙しい人の、便利シリーズ)	ベターホーム出版局	8

本館改修スケジュール



瀬戸市図書館利活用計画(5ヶ年計画)スケジュール案

2021.9.29作成



瀬戸市立図書館エディター養成講座 受講生募集！

瀬戸市の文化・歴史・自然・多彩な人、ユニークな物、かけがえのない事などを編集してウェブで発信したり、図書館の本棚の構成やイベントを企画したりと、様々な活動を担う「図書館サポーター」にご協力いただける方のために編集力などを磨く講座です。老若男女だれでも参加でき、日々の暮らしがより充実するものとなることを目指します。

【講座内容】編集術の基礎、取材・インタビュー術、ブログ作成術、カメラ撮影術、文脈的本棚構成術、物語術、SNSの心得 など

【リアル講座の日程・時間】

- ① 8/15（日） ② 9/11（土）
③ 10/24（日） ④ 12/12（日）
⑤ 1/16（日） ⑥ 2/27（日）

＊いずれも午後1時30分～3時30分

【場所】図書館1階 集会室

【講師】太田 剛 氏
編集工学機動隊 GEAR 代表
図書館と地域をむすぶ協議会チーフ
ディレクター
慶應義塾大学講師



【講座の形式】

講師による教室形式のレクチャー「リアル講座(全6回)」とインターネットを利用した「ネット講座」を組み合わせで行う。

【対象】

- ① 高校生以上（市外在住の方も歓迎します）
② 全6回のリアル講座にすべて参加可能でオンライン（メール）でのやりとりが可能な方。

【申込方法】メールで①氏名②年齢③電話番号④メールアドレスを記入し、お申し込みください。（先着 25 人）

Eメール toshokan@city.seto.lg.jp